

富山市民俗民芸村
連携企画展 2023

呉羽丘陵

晩秋の呉羽山公園

令和5年

富山市民俗民芸村 9月▶11月のご案内

民俗民芸村の各施設で
呉羽丘陵に関わる
展示やイベントを行います！

連携
企画展

呉羽丘陵

お問合せ 富山市民俗民芸村管理センター 富山市安養坊 1118-1 TEL076-433-8270
<https://www.city.toyama.toyama.jp/etc/minzokumingei/>

民俗民芸村で
「博物館浴」
をしよう！



考古資料館キャラクター ハッチー カガミィ

民俗資料館

6/30(金) ▶ 11/26(日)

「呉羽丘陵の産物～茶摘みの風景が広がっていた頃～」

現在呉羽といえば梨の一大生産地として知られますが、呉羽丘陵ではこれまでどのような農産物がつくられてきたのでしょうか。

江戸時代までさかのぼると、米以外の作物が年貢として納められていました。明治時代以降は、一時期桃・梅といった果樹も栽培されていました。特に、茶の生産は江戸初期から盛んに行われ、昭和時代まで長く続けられました。

現在ではほとんど見られなくなった呉羽の産物のうち、主に茶の歴史を探り、歴史的資料を写真パネルで紹介いたします。また、作業で使用した道具などを展示します。



ホイロ（焙炉）
茶葉を手もみして乾燥させる道具
（富山市民俗資料館所蔵）



チャガメ（茶甕）
茶葉を保管したり、運搬
したりするために使用
（富山市民俗資料館所蔵）

売薬資料館

8/5(土) ▶ 11/5(日)

「富山売薬みやげにみる呉羽丘陵」

富山の売薬商人は、お客さんの家へ薬を届ける際、みやげ品・おまけをさし上げていたことでも知られています。紙風船はその代表です。

江戸時代後期から明治時代後期にかけてのみやげ品には、箸など実用品のほか、版画が多く用いられました（売薬版画）。暦や歌舞伎芝居絵など多種類の図柄があり、お客さんに合わせて配られていました。当館に収蔵する売薬版画のうち、呉羽丘陵周辺が描かれているものを展示します。

また、かつて呉羽山頂にあった富山2代藩主前田正甫公（売薬商売の祖といわれる）像の写真を載せたみやげ品にも触れます。



「越中桜谷花見の図」（竹翁画、富山市袋町 高見清平版）
（富山市民俗資料館所蔵）

陶芸館

9/8(金) ▶ 11/8(水)

「呉羽丘陵のやきもの6000年」

呉羽丘陵周辺では豊かな自然環境のもとで、縄文時代から現代まで多くのやきものが焼かれました。その要因には、古くは暮らしで使う土器を焼くための粘土や薪の入手が容易であったこと、須恵器や瓦の生産に必要な窯に適した傾斜面を利用できたこと、現代においては静かな自然のなかで独自の陶磁器を創作する場として選ばれたことが挙げられます。

本展では6000年に及ぶ呉羽丘陵のやきものの歴史をご紹介します。それらを育んだ豊かな環境を再確認したいと思います。



土偶 縄文時代
追分茶屋遺跡出土
（富山県考古資料館所蔵）



秦豊秋作「梨畑」陶板 1985年頃
（個人所蔵）



高桑英隆作「白磁壺」2022年
（個人所蔵）

展示解説会
9/16(土)・10/7(土)
午後1時～
詳細は裏面をご覧ください。

民芸館・民芸合掌館

9/16(土) ▶ 12/10(日)

「呉羽山と民芸館」

昭和40年(1965)に開館した富山市民芸館は、北陸銀行初代頭取の中田清兵衛氏(15代)の米寿を記念して、息子勇吉氏(16代清兵衛)によって市に寄贈されたものです。岐阜県飛騨市神岡町の奥村家の穀物蔵が移築されました。

本展では民芸館の立地場所としてなぜ呉羽山が選ばれたのか、民芸館の開館の経緯をふまえ、呉羽山の観光開発の変遷や、市民の憩いの場としての歴史を写真や地図、資料などの展示から探ります。また、初代館長の安川慶一氏の木工作品をはじめ、開館からの収蔵品(民芸品)の逸品を展示し、開館当時を偲びます。



開館当時の民芸館
（中田佳男氏提供）



筒描絵針斗図大幅
（富山市民芸館所蔵）

考古資料館

9/30(土) ▶ 11/28(火)

「杉谷古墳群・杉谷A遺跡の全貌～日本海文化論の現在～」

呉羽丘陵にある杉谷4号墳や杉谷A遺跡の発掘調査成果から、古墳出現期の富山平野の勢力は日本海をルートとして山陰の勢力と結ぶことによって独特な文化、いわゆる「日本海文化」を形成したと考えられてきました。当館では、昭和54年の開館以来この解釈で常設展示しています。

本展ではこれまでの間に全国各地で多くの遺跡の発掘調査成果が蓄積し、諸要素からの詳細な検討が進んでいることを踏まえ、北陸三県(福井・石川・富山)の考古資料を比較することで古墳出現期の地域間関係を再考し、常設展示とは異なる解釈をご紹介します。

解説講座
10/14(土)
午前10時～12時
詳細は裏面をご覧ください。



杉谷A遺跡の方形周溝墓群
（富山県埋蔵文化財センター提供）



杉谷A遺跡出土鉄器、銅鏃、
ガラス小玉、同装着復元例（富山県考古資料館所蔵）

篁牛人記念美術館

10/5(木) ▶ 2024/2/12(祝・月)

「呉羽の画人 ハンニヤイチロウと篁牛人」

篁牛人と盤若一郎は呉羽山の一隅にアトリエを構え、無所属のまま制作を続けた画家です。篁牛人は富山市石坂生まれ。高岡工芸高校図案絵画科卒業。昭和22年頃から水墨画を描きはじめます。盤若一郎は高岡市金屋町生まれ。高岡工芸高校を経て昭和9年東京美術学校(現東京芸大)彫塑科を卒業。昭和23年から富山商業学校の教職を辞して画業に専念しました。二人の交流は、昭和32年に盤若一郎が安養坊に移り住んだ時から始まり、親交を深め、ともに孤高の画家と称されました。呉羽山、桜谷に関連する絵や二人の交友を物語る作品をご紹介します。

展示解説会
10/7(土)
午後2時30分～
詳細は裏面をご覧ください。



篁牛人作「寒山拾得」1967年
（篁牛人記念美術館所蔵）



盤若一郎作
「篁牛人壽舌縦横」1970年
（篁牛人記念美術館所蔵）

■茶室円山庵 9/23(土)▶11/23(祝・木)

立礼席の入口で、移築前の茶室「録壽庵」（大正時代）について書かれた『圓山荘之記』をパネルでご紹介し、呉羽丘陵と茶室の関係を探ります。

※抹茶一服（茶菓子付） 430円

■担当学芸員による展示解説会など

●展示解説会

会場：陶芸館

9/16(土)、10/7(土) 午後1時～

会場：箕牛人記念美術館

10/7(土) 午後2時30分～

※無料（観覧料のみ必要）、申込不要

●解説講座

会場：管理センター講座室、考古資料館

10/14(土) 午前10時～12時

午前10時～11時30分 管理センター講座室

「杉谷古墳群・杉谷A遺跡と“日本海文化”」

※講座後、考古資料館で展示解説をします。

※無料、申込不要

■いろりを囲むおはなし

会場：民芸合掌館

いろりを囲んで呉羽丘陵周辺の伝説や物語を聞きます。

●講師：奥井悦子さんほか（富山語りの会のみなさん）

9/16(土) 午後2時～3時

「長慶寺の五百羅漢」ほか

10/21(土) 午後2時～3時

「歴史・文化の村、民俗民芸村」ほか

11/18(土) 午後2時～3時

「白鳥城の豊臣秀吉」ほか

※無料、申込不要

■呉羽山歴史探訪ツアー ※少雨決行

11/3(祝・金) 午前9時30分～12時30分

「呉羽山周辺の地形と地質」

旧河道（昔の河の跡）、呉羽山礫層、安養坊砂泥互層、

呉羽山断層、旧北陸街道、市電呉羽駅跡地、牛ヶ首用水

●講師：安江健一さん（富山大学都市デザイン学部准教授）

※募集人員や参加料（保険料）、応募方法などの詳細は、
広報とやま9月20日号、及び民俗民芸村ホームページで
お知らせします。

●観覧料

全館共通／大人 530円

1館／大人 100円

高校生以下無料

AMAZING TOYAMA

●交通案内

車 / 富山駅から約10分

富山IC・富山西ICから約20分

駐車場無料

バス / 富山地方鉄道バス

富山駅前⑦のりばから新桜谷町行乗車

富山市民俗民芸村（東側駐車場そば）下車、

または安養坊下車徒歩5分



富山市民俗民芸村

管理センター 富山市安養坊1118-1 TEL 076-433-8270

<https://www.city.toyama.toyama.jp/etc/minzokumingei/>

呉羽丘陵フットパス散策MAP (富山市建設部公園緑地課提供画像を一部改変)

